

科 目 名	子ども・子育て支援実践研究		副題		
担 当 者	犬塚 典子				
開 講 期	後期	単位数	2単位	配当年次	1・2年次
授業の概要	子ども・子育て支援の実践について、前半は、OECD諸国の動向について把握し、カナダの事例を分析する。後半は、日本の新聞、自治体広報など各種メディアの記事を共同で分析し、子育て支援実践のための理論、政策、財政のありかたについて検討する。				
授業のねらい ・到達目標	1. 日本の子ども・子育て支援施策の変遷および現状について理解する。 2. 海外における施策や実践との比較から、日本の子ども・子育て支援制度の内容について理論的・実証的に分析する視点を身につける。 3. 現代社会の子ども・子育て環境やその実際について研究的な問題意識をもつようになる。				
授業の方法・授業計画					
1	オリエンテーション（ガイダンスおよび課題研究について）				
2	OECD諸国における子どものケアと教育に関する施策の動向（1）				
3	OECD諸国における子どものケアと教育に関する施策の動向（2）				
4	OECD諸国における子どものケアと教育に関する施策の動向（3）				
5	カナダにおける子どものケアと教育に関する実践事例検討（1）全日制幼稚園				
6	カナダにおける子どものケアと教育に関する実践事例検討（2）学童保育				
7	カナダにおける子どものケアと教育に関する実践事例検討（3）父親休業				
8	日本の子ども・子育て支援政策の変遷ならびに現状				
9	日本における子どものケアと教育に関する実践事例検討（1）幼稚園・保育所				
10	日本における子どものケアと教育に関する実践事例検討（2）認定こども園				
11	日本における子どものケアと教育に関する実践事例検討（3）事業所内保育施設				
12	日本における子どものケアと教育に関する実践事例検討（4）病児・病後児保育				
13	日本の政策事例に対する討議（1）				
14	日本の政策事例に対する討議（2）				
15	まとめ				
期末					
授業に関する連絡	でんでんばんを通して連絡する。				
評価方法及び評価基準	毎回の討議への貢献度を総合して評価する。				
事前・事後学習の内容	国内の政策や実践例について情報収集および整理を常に行うこと。また、毎回の授業内容を参照しつつ各自の課題研究を進めること。				
履修上の注意	課題発表のために授業時間外での研究調査を必要とする。				
テキスト	配布資料を中心に進める。				
参考文献	OECD『OECD保育白書』明石書店、2011年。				